

今の季節が要注意

京都に住む70代の婦人が、夕食の筑前煮をつくっている途中、激しい頭痛に襲われた。映画館から戻った夫が、震える手で救急車を呼ぶ。

婦人が発症したのは、くも膜下出血。脳卒中の中では1割ほどで、脳梗塞が6割、脳出血が3割で多数派だ。主に栄養不足からくる脳出血では、上杉謙信や徳川吉宗が亡くなったとされ、小林一茶も60歳で倒れ、死亡するまで5年間を寝たきりで過ごした。脳卒中は寒い今が最も危険な季節だ。

もし老親が倒れてしまったら……。いくら出費を覚悟すればいいのか。

親が脳卒中になったら医療費が払えるか？

脳卒中の平均在院日数は104.7日（08年度＝厚労省）。1日の平均入院費は約2万3000円だ。

「つまり、240万円のお金がかかります。もちろん、健康保険で自己負担は3割（70歳以上は1割）に減り、さらに高額医療費の適用で負担は月9万円ほどになる。新しい下着代などを含め、1回の入院で50万円程度が目安でしょう」（全国介護者支援協議会理事の上原喜光氏）

ただし、食事代や差額ベッド代は別。差額ベッド代の全国平均は1日約5800円だから、104



日で60万円が飛ぶ。看病の交通費なども数十万円。在宅介護になれば、玄関のバリアフリー工事などもあり、最低でも50万～100万円が加わる。

要するに、現金で250万円が必要なのだ。とてもじゃないが、そんな金はない。

「兄弟間での話し合いになるが、次は老親を誰が引き取るかで必ずケンカになる。この心理的な負担はお金では換算できません」（上原氏）

脳卒中の入院患者数は、年間約20万人。覚悟を決めた方がいい。